

「しきなみ賞」「しきなみ新人賞」入選速報

しきなみ賞 (順不同・敬称略)

|          |       |
|----------|-------|
| 最優秀賞(二名) | ページ 1 |
| 優秀賞(三名)  | 2     |
| 佳作(十名)   | 3     |

しきなみ賞新人賞 (順不同・敬称略)

|          |   |
|----------|---|
| 最優秀賞(二名) | 4 |
| 優秀賞(三名)  | 5 |
| 佳作(十名)   | 6 |

しきなみ賞 (順不同・敬称略)

【最優秀賞】

●花びらのうた

本多 陽子(熊本・長嶺・真砂集)

- ・障がいでも多くの人のやさしさを根っこに吸って笑顔になれる
- ・作業所に通う姿を亡き父に一目でいいから見せたいと思う
- ・「つらいなら起こしていいよ」とテーブルに母の手書きのメモ置かれたり
- ・もどかしさ伝えることのできなくてさ緑の葉を揺らす風見る
- ・小さきことひとつひとつを褒めあげて花びらのごと日記に綴る

●命さやけし

大島 安徳(鹿児島・龍郷・群螢集)

- ・シナ海の初日をろがみ漕ぎ出せば吾が六十兆の細胞は燃ゆ
- ・荒海に帆を上げ叫びし父の声病み臥す吾を奮ひたたしむ
- ・治らざる病ひ抱けば人の世を見つむる眼の澄みて穩しも
- ・目交に明けの万緑迫り来て病むわが愁ひのすうと消ゆるも
- ・悔い多き世を永らへて天みつる星座仰げば命さやけし

【優秀賞】

● 塩害田圃

橋本 英子（宮城・石巻・飛雲集）

- ・ 津波潮被りし田圃に農民はただ呆然と畦に立ちおり
- ・ 肥料撒けいやいや撤くなとくい違う塩害田圃に田植えが迫る
- ・ 家族らの祈りが天に届きてかこの津波跡に稲は豊作
- ・ 息子の遺体未だ上らぬ姪に送る塩害に負けぬ今年の米を
- ・ 菊の香に包まれ花摘む倅せをかみしめながら被災地に生きる

● 消える事なき残像

増田 壽子（宮城・宮城法人・飛雲集）

- ・ 地割れした雪降る夜道を三時間我家目指してひたすら歩く
- ・ 暗闇の横断歩道をいつ渡る絶えぬ車に恐怖で固る
- ・ 暗闇で手廻しラジオにかじりつき増えゆく死者の数に戦く
- ・ 何も無い人影も無くむき出しのビルの鉄骨風吹き抜ける
- ・ 残された家の窓破れ寒風に引きちぎられてカーテンの舞う

● 穂高の天蚕糸

丹後谷 恭子（長野・池田・白光集）

- ・ 安曇野にふき来る風を受けながら山蚕はみどりの繭結びゆく
- ・ 神様から賜わりし繭みどり濃く山蚕の糸はつやつやとして
- ・ 光沢もみどりの色も手ざわりも野生の糸は天から賜わる
- ・ 足踏みて山繭の糸丹念に機に織る女二十五年と
- ・ 類なき山蚕の糸の織物は若葉の色の光を放つ

【佳作】（五首中一首紹介）

- ・ 高根澤 和子（福島・福島中央・真砂集）
- ・ よろよるとやつれた猫が虫狙う原発避難地山木屋の茂みやまきや
- 松尾 美智子（兵庫・西神吉・飛雲集）
- ・ 零細な企業なれども製品はスカイツリーの部品となりぬ
- 木村 久子（宮城・石巻・飛雲集）
- ・ 震災から八ヶ月たちて書き終えた転居届を沁み沁みとみる
- 且井 正利（千葉・千代田・飛雲集）
- ・ 腹ヘツタ母の手渡す握り飯一口食べて母を見上げた
- 大谷 津江子（京都・鳳凰・真砂集）
- ・ 希望校少しも休まず登校す長き不登校乗り越えし息子はこ
- 渡邊 ミエ子（千葉・中沢・群螢集）
- ・ 待つ事も待たれる事も無き日に門松飾り新年を待つ
- 執行 喜代子（福岡・櫛原・飛雲集）
- ・ 初めての夫の病に真向かいて連れ添う道に灯りをみつく
- 早坂 裕子（千葉・酒々井・真砂集）
- ・ 老いの身の痛みをちこち託ちつつ寒さゆるめば又畠を打つはた
- 花城 さかえ（沖縄・鳥堀・群螢集）
- ・ 「おはよう」と駆け来る児童らを迎えたりランドセルごと両腕の中
- 徳力 洋子（ブラジル・サンパウロ・飛雲集）
- ・ はるかな日移民船にて通った路今夫と往く観光船で

「しきなみ新人賞」作品一覧

最優秀賞（二名） 優秀賞（三名） 佳作（六名）

しきなみ新人賞（順不同・敬称略）

【最優秀賞】

● 故郷・母

原田 湊子（東京・糀谷）

- ・ 大津波育てくれたる故郷を瞬時にのみ込み瓦礫の街に
- ・ 残された生家の土台を見つめたしかにあった思い出に泣く
- ・ 彼の時の海と同じか山田湾かもめ飛び交い波しずかなり
- ・ 消息の未だ判らぬ我母を捜しあぐねる夢に泣く朝
- ・ とびきりの笑顔で花束抱く母米寿祝いの家族写真よ

● 亡妻の思い出

坂口 敏彦（東京・大泉）

- ・ 「もう一度私と添いてくれますか」病む妻の言う秋の夕暮れ
- ・ 夏までは生きてはいけぬ妻の背は日ごと薄れてゆくを見つめる
- ・ 「相棒へ」妻は想いを伝えんと最後のメール遺して逝きぬ
- ・ 亡妻思い眠れぬままに更けゆきて障子を覗く月のつめたさ
- ・ 主なくし輝のいりたる茶碗にはこぼれる程に亡妻の思い出

【優秀賞】

●子育て

中村 亜美（長野・佐久平）

- ・スヤスヤと眠るわが子の横顔を見つめて夢におちる幸せ
- ・物干しの吾子のくつ下風に揺れこんぺいとうに見えてたのしき
- ・四六時中あわただしさの毎日も愛しき吾子の育児の日々よ
- ・おんぶして背に伝わる子の温み心癒され体ほかほか
- ・終日を抱っことおんぶ繰り返し吾が子と二人一つの体

●田んぼ

宮下 弘子（山梨・下吉田）

- ・田の準備八十路過ぎるも取りかかるまだまだ出来ると夫はいいつつ
- ・代掻けば蛙鳴き出す一斉に夕げのひととき箸休め聞く
- ・畦道につかんとばかり重き穂の黄金にゆれて刈取りを待つ
- ・収穫終え稲わら散らし来年の豊作祈る夕やけの空
- ・耕運機見る間に休田掘り返す空気混じりて土の息吹きや

●育児日誌

三原 真希（神奈川・淵野辺）

- ・木枯らしが吹いても平気最愛の赤子の湯たんぽおぶって買い物
- ・オムツ替えついでにお腹くすぐるとキャハッと笑うかわいい天使
- ・ぐずり出す診察苦手な吾子なだめなんとか終了ホッとひと息
- ・久々にごはんおかわり吾子笑顔風邪落ち着いて我も安堵す
- ・ヨチヨチと歩く娘と手をつなぎ一歩ずつ行こう道しるべとなり

【佳作】（五首中一首紹介）

- 武田 千恵子（山梨・下吉田）  
・ここかしこ夫の指先ひび割れて男の仕事のきびしさを知る
- 上村 ヒロ子（鹿児島・小松原）  
・生い茂る草との格闘春夏と義母より継ぎし草刈りの技
- 高久 章子（東京・きたしな）  
・還暦も迎えず逝きし母眠る島の墓前に菊花手向けむ
- 田山 泰子（神奈川・溝の口）  
・五十余年クリーニングを生業なりわいにいつしか夫の右手長く伸びるや
- 久保 親二（東京・憩の家）  
・故郷の路地に吹く風懐かしみ母十三回忌迎え火を焚く
- 有馬 徹夫（鹿児島・鹿屋寿）  
・オメデタと聞かされ妻の御腹観るおへその形いつもと同じ